

参考資料4 区民意見(2) 意見交換会

～～目次～～

1. 「みんないきもの大作戦！プレ作戦会議」(10/20 開催) → P1～
2. 「みんないきもの大作戦！キックオフイベント」(11/10 開催) → P6～
3. 「自主活動_みなと区生物多様性勉強会」(12/7 開催) → P15～
4. 意見交換会における区民意見のまとめ → P20～

1. 「みんないきもの大作戦！プレ作戦会議」(10/20 開催)

〔日時〕平成24年10月20日(土) 13:30～16:30 (受付は13:00～13:30)

〔場所〕港区立エコプラザ

〔当日参加人数〕8名

〔ねらい〕

「港区生物多様性地域戦略」に関心を持ってもらい、継続的・主体的に関わってくれそうな区民を発掘する

〔参加者のゴール〕

11月10日のシンポジウムや、今後の「いきもの作戦会議」に参加してみよう、という気持ちになっている

〔スタッフ〕

港区：高橋係長、遠藤主事

(株)環境指標生物：武田、中村、川口、桑原、阿子島

(有)ビーネイチャー：徳田(ファシリテーター)

NPO法人地域自然情報ネットワーク：梶並

〔実施内容〕

実施時間	内容	詳細
13:30	開会あいさつ	
13:35	主催者より趣旨説明	
13:40	チェックイン	お名前、活動、今日の期待など記入。
13:55	アイスブレイク	「港区のいきもの」に関するクイズ実施。
14:10	「生物多様性」を語ろう	
15:00	休憩	
15:10	「作戦会議」の今後を語ろう	今後、区民会議を開いていくにあたって、どんな内容で、どんな進め方ができたらいい？等、これからについての話し合いを実施。
16:00	キーワードを取り出そう	「今日の私のキーワード」(感想、印象に残った言葉など)をA4白紙に記入。
16:05	チェックアウト	お名前、感想、今日の私のキーワードなど記入。
16:15	閉会あいさつ	シンポジウムの案内も実施。
16:20	アンケートのお願い	アンケート配布。

〔当日の様子〕

事前申込者は少なかったものの、途中参加等を含め、合計 8 名の参加者が集まりました。これに、港区職員や受託者スタッフが入り、15 名程度の輪でワークショップを行いました。

「港区の生きものパネル展」を横に見ながら、丸太の椅子で輪になり、アットホームな雰囲気が始まりました。



全員で輪になっての意見交換



印象に残った言葉、感想を共有

自主的に勉強会を開いている人や、会社や団体に活動をしている人のほか、エコプラザで受付をしているシルバー人材センターの方や、観察会等に参加している区民等も参加されました。

第 1 部「生物多様性」を語ろう！では、参加者の生物多様性の認識を確認・共有することを目的としました。生物多様性の意味や認識について考えたり話し合ったりした結果、生物多様性は、「つながり」や「個性」などといったキーワードで表現されることや、広い意味での「自然」として言い換えることも可能である、等の意見が出てきました。

また、第一次産業と生物多様性とのつながりが深いこと、エコロジーとエコノミーが対立するか？環境にもよく、経済合理性もある！というのも可能ではといった意見もありました。

生物多様性を保全するための行動として、「移動は自転車」、「何を食べるか」を意識する、「合成洗剤をつかわない」、「ゴキブリ駆除をアシダカグモで」等の意見がありました。

とくに、「ゴキブリ駆除の方法に関しては、個人の価値観、好みが大きく影響すること、生物多様性を保全するにあたって、価値観の違いは、様々な場面で大きく影響する可能性があることを共有しました。

第 2 部「作戦会議」の今後を語ろう！では、今後、「作戦会議」を進めていくうえで、参加しやすいやり方を検討するために、意見交換を行いました。

参加者が少数であったことから、「生物多様性」という言葉が人をひきつけないのではないか、「雰囲気を知ってもらうために、作戦会議の様子を公開するといいのではないか」等の声がありました。また、室内でただ話し合いをするのではなく、野外観察や見学をしたあとに話し合うことが有効ではないか、との意見がありました。

テーマとしては、「港区で地産地消を考える」、「食べ物」、「農業」などは楽しくとっつきやすいとの声がありました。また、子ども対象ではどんぐり等を題材とするとわかりやすいとの意見がありました。

最後に、話し合いを通じて印象に残った言葉や感想等を、ひとりずつ紙に書いて発表し、共有しました。

「運河で泳ぎたい」、「価値感のちがい」、「つながり」等が印象的でした。また、感想としては、「いろんな方のつながりができてよかった」、「いろんなアイデアを持っている方とお話しできて楽しかった」等の声がありました。

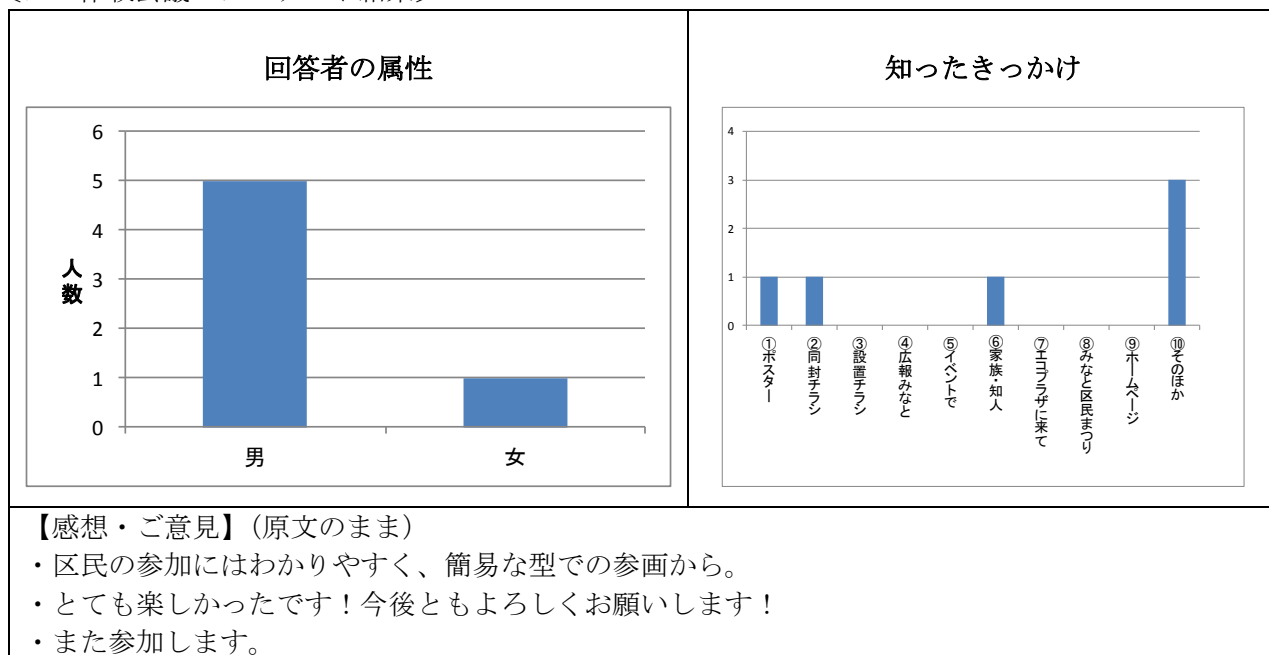
「外来種は本当に悪いのか？」などの具体的な課題を指摘した参加者がいた一方で、「何を書いていいかわからなかった」という方もいました。今回の参加者は、生物多様性に関する理解や認識、捉え方も様々でした。

■出た意見（原文のまま）

テーマ	意見
第1部 「生物多 様性」を語 ろう！	■様々な年代がいる場なので、聞いてみたい・・ ・(20代より) 自然がなくなっていく過程を見ながら育ってきた・・・。今後どうしたらいいとか、考えを聞いてみたい。 ・(60代より)「こういうことはしないほうがいいですよ」ということはあるが「こうしましょう」ということは思いつかない。いきものがいなくなる原因は、あとから分かるものだ。 ・港区に通ってきても自然を感じることは、なかなかない・・・。 ・子どもに自然を感じられるような遊びを教えたい。 →「生きものは単独では存在できないよ」＝生物多様性を伝える ■そもそも、生物多様性って、なんなのか？ 生物多様性 ・遺伝子 ・種 ・環境、生態系 の多様性、つながり ・「いきもの」だけとは限らない。地形なども含めて考えることも。 ・「調和」「自然」と呼ばれるもの。 ・微妙なバランスでつながりが保たれている。 ・「つながりが変わってきた」のが現在。 ex) 外来種が増えている（緑被率を上げるためには外来種ではなく在来種を！） ・「いきものつながり」と定義することも。 ・「層」が単純化している？ →様々な表現がされているということを確認 ・「自然」「いきもの」だけでなく ・「エコな暮らし」 →→→自然エネルギーを使った発電とか？ ・環境に負荷をかけないので、持続可能。 ・「エコビジネス」も生物多様性に関係？ ■それは、エコプラザのテーマにも関係があるんじゃないの？ここはなぜ「エコプラザ」？ ・FSC 認証→森っぽい ・・・。「目的」と「手段」が逆転しないようにしなければ・・・。 ・CO2→みなとモデル ・オーガニック ・生物多様性に最も関連するのは、第1次産業 ・エコロジーとエコノミーは対立するか？ ・環境にもよく、経済合理性もある！というのも可能では。 ・昔のホテルと今のホテルの違い→家の中に入ってこない ・自然エネルギーに変えるだけでなく、消費量自体を減らす必要もあり。 ・移動は自転車で！ ・「何を食べるか」を意識する！ ・合成洗剤をつかわない！ ・ゴキブリ駆除をアシダカグモで（笑）→「どっちが好きか」の価値観って違うよね。 →「生物多様性を守ろう！」という時に違いが問題になる。

第2部 「作戦会議」の今後を語ろう！	■今後、「作戦会議」を進めていくうえで、なんでもいいから、こうしたほうがいいとか、集まりやすいのはいつかなどについて、意見をください。 ・生物多様性に興味、関心が高くない人がいたほうがいい。そのためには、具体的なイメージを持てるよう、フィールドに出ることなども一緒に。 ・「生物多様性」という言葉が人をひきつけないのでは・・・ かといって「いきもの大作戦」でもイメージがつかめない・・・。 ・記録を公開すると興味をひくのでは？（雰囲気を知ってもらう） ・客寄せパンダとして「カワセミ観察会」はどう？ ・「港区で地産地消は可能か？」を考えると楽しいのでは？（おいしく食べて、楽しく生きる） ・「農業」が港区でできると楽しい！ ・「現場」があると、幅広い世代が楽しめる！ ・「食べもの」もとつきやすい。 ・「どんぐりひろい」など、子どもたちが参加しやすいイベント ・ビオトープやビルの緑地をどう活用したい/できるかを考える場。 ・点と点の緑地をつなげる。 ・「港区をどうしたいか」を語る場。 ・「運河を泳げるくらいきれいにしたい！」 ・「1人が5人連れてくる！」港区在住、在勤でなくてもOKです！
印象に残った言葉・感想	・一人5人で次は100人！そして、次は、みんなスタッフで！！ ・食、どんぐり、実感、非日常 ・いきものは単独では生きられない。「つながりかた」を考えることの大切さ。 ・街は、人と金はあるが、地面もしくは空間がない ・生物多様性とは「自然」のことである。 ・つながり ・参加者の方達と意外とお話できたのがとても良かったです。生物多様性にも色々なレベルがあるように、価値観や立場により捉え方が違うというのは改めて認識しました。 ・これから何を目指すのか？多様な人々の多様なニーズ。次の世代に何を残すべきか。楽しくできることをみんなではじめる活動できるフィールドは、どこにあるか？ ・生物多様性とガマン（生物との共生） ぶんさん ・外来種って進化の過程？スピードが早すぎるからダメ？ ・エコロジーとエコノミーは対峙する訳ではないが、一致していないものが、課題として残っているだけ。 ・むかしは生物多かたって本当？区内ではイメージだけで、そんなに変わっていないのでは。むしろ地方へ行った時に感じるのでは。 ・もっと世界にも目を向ける？ ・運河で泳ぎたい ・いろんなアイディアを持っている方とお話しできて楽しかったです！ ・関係性、調和、つながり ・様々な価値感を持った方々がいることを前提とすること。 ・生物多様性は、私たちの生活のいろいろな場面に深く関わっていて、地域戦略は、つまり、生物に関することのみでなく、これからどういう社会を作っていきたいか、というものを描くものなのだなと感じました。） ・いろんな方のつながりができてよかった。印象に残ったことば「価値感のちがいがいい」 ・白紙（どう書いていいか、全然わからなかった）

〔プレ作戦会議 アンケート結果〕



2. 「みんないきもの大作戦！キックオフイベント」（11/10 開催）

〔日時〕 平成 24 年 11 月 10 日（土） 13:30～16:30 （受付は 13:00～13:30）

〔場所〕 港区立エコプラザ

〔当日参加人数〕 29 名 うち在住 12 名、在勤 8 名、区外 9 名

〔回収物〕

受付票回収枚数 23 枚

アンケート回収枚数 22 枚

MY 行動宣言回収枚数 19 枚

〔ねらい〕

「港区生物多様性地域戦略」の実施を周知し、区民等の参加者が主体的に関わるきっかけをつくること。

〔具体的な目標〕

- ① 港区生物多様性地域戦略とは何か、みんないきもの大作戦とは何かを理解できる
- ② 生物多様性とは何かを、なんとなく理解できる
- ③ 生物多様性という概念は、港区において身近な存在であることに気がつく
- ④ 港区生物多様性推進委員会の委員募集のお知らせを行う

〔話題提供者〕

中村俊彦先生（港区生物多様性推進委員会副委員長・千葉県立中央博物館）、
矢野亮先生（国立科学博物館附属自然教育園名誉研究員）、河野博先生（東京海洋大学教授）、
山田順之氏（鹿島建設株式会社）

〔ご協力いただいた推進委員〕

本田裕子先生（高崎経済大学助手）

〔ご協力いただいた専門家〕

川廷昌弘氏（株式会社博報堂）、草刈秀紀氏（WWF ジャパン）

〔スタッフ〕

港区：益口部長、亀田課長、高橋係長、遠藤主事、吉田主事
（株）環境指標生物：武田、中村、川口、桑原、阿子島、高木
（有）ビーネイチャー：鈴木、徳田、森、小川（ファシリテーター）
NPO 法人地域自然情報ネットワーク：梶並、井本

〔実施内容〕

実施 時間	内容	詳細
13:00	開場・受付	資料配布。
13:30	副区長ご挨拶	
13:35	キックオフイベントの趣旨説明	みんないきもの大作戦！とは、地域戦略の必要性、イベントの目的などの説明。
13:40	第1部 シンポジウム	ミニ講演 矢野先生：「港区の自然と生きもの」 河野先生：「江戸前の海とお付き合いする方法」 山田氏：「ミツバチとヤギの視点で考える都市の生物多様性」 中村先生：「生物多様性とわたしたちの暮らし」
14:55	第2部の説明・ 専門家の先生の自己紹介	本田氏、川廷氏、草刈氏、武田氏の自己紹介。
15:05	休憩	となりの部屋に移動。 一部アンケート等回収。
15:20	第二部 いきもの作戦会議キック オフ！	4グループに分かれて、グループごとにディスカッション。 前半は、第1部を聴いて感じたこと・考えたことの共有。 後半は「港区の理想の将来をつくるために、あなたならどう関わっていききたいですか？」をテーマに対話。
16:10	共有	中村先生からのコメント。
16:20	お知らせ	区民委員募集、次の開催、アンケート等のお願いについてお知らせ。
	閉会の言葉	
16:30	終了	アンケート等回収。

〔当日の様子〕

参加者は、自主的に勉強会を開いている人や、会社や団体で活動をしている人、生きもの好きの人など多彩な顔ぶれでした。年齢層は20歳以上の大人が中心でしたが、親子連れ（小学4年生）の参加者もありました。また、在住者や在勤者だけでなく、生物多様性に関心の高い区外から参加者も多くみられました。

開始前には、「港区の生きものパネル展」を横に見ながら談笑するなど、にぎやかな雰囲気でした。

副区長からのご挨拶を皮切りに、イベントは始まりました。

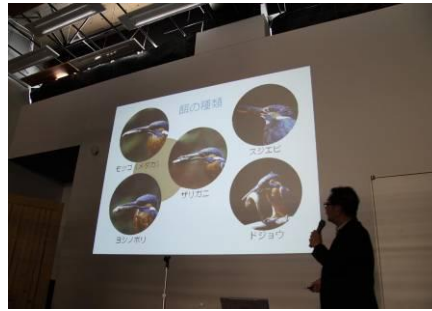


副区長のご挨拶でイベント開始

第1部 シンポジウム

第1部では、矢野先生、河野先生、山田氏及び中村先生の4人の方の講演がありました。

自然教育園名誉研究員の矢野先生は、長年にわたって研究されているカワセミの繁殖生態についてお話しされました。臨場感あふれる写真と、ご自身の体験談も交えたお話に、参加者一同釘付けとなっていました。



矢野先生によるカワセミのお話



中村先生による「生物多様性と私たちの暮らし」についてのお話

東京海洋大学教授の河野先生は、私たちが江戸前の海とどのように関わっていけばよいかということ、大学で研究されている東京湾の魚類と、現在取り組まれている江戸前ESDの活動を例にあげてお話しされました。ユーモアあふれる解説ぶりに会場の笑いを誘っていたとともに、となく忘れがちな海との関わり方について多くのヒントを与えて下さいました。

鹿島建設株式会社の山田氏は、都市と生物多様性というテーマについて、ヤギとミツバチを例に説明されました。都市生活者である港区民にとって重要なテーマとなる都市と自然との関わり方を、短い時間の中でわかりやすく解説して下さいました。

千葉県立中央博物館の中村先生は、「生物多様性と私たちの暮らし」というテーマで、生物多様性についての現状、重要性、課題、戦略を進めていく上での論点をわかりやすく解説して下さいました。特に、自然との触れ合いが、子どもの感性の成長に重要な役割を果たしているというお話は、都市に生活する港区民にとって大きな問題と言えます。

短い時間ながらも内容の濃い講演に、参加された皆さんが熱心に耳を傾けて聞いている姿が印象的でした。第2部のいきもの作戦会議に臨むにあたって、効果的な情報提供の場となったのではないかと考えられます。

第2部 いきもの作戦会議キックオフ！

第2部では、生物多様性という概念の理解を深め、また港区の生物多様性地域戦略の作成にあたり、有意義な意見を得るため、赤チーム、青チーム、黄色チーム、緑チームの4グループに分かれて、次のテーマで話し合いを行いました。



グループごとに分かれて話し合い



各グループで出た意見を発表

①第1部を聞いて、どんなことを感じ、考えましたか？

②港区の理想の未来をつくるため、どう関わっていきたいですか？

なお、各グループにはファシリテーター（進行役）を配置し、話し合いを促進しました。グループによっては、ファシリテーターの判断で、テーマを噛み砕いて設定しました。

■グループ分け

チーム	専門家	ファシリテーター	おおよその人数
赤チーム	草刈氏・本田先生	梶並	7名
青チーム	矢野先生・川廷氏	徳田	8名
黄色チーム	河野先生・武田氏	小川	7名
緑チーム	中村先生・山田氏	森	7名

■各グループで出た意見（原文のまま）

テーマ チーム	①第1部を聞いて、どんなことを感じ、考えましたか？	②港区の理想の未来をつくるため、どう関わっていきたいですか？
赤チーム	- 子ども達の自然の理解が重要！ - 海は忘れがちじゃない？ - これだけ生き物がいるんだ？！メダカはどこに？？今後も、いろいろ街づくりすればいいんじゃない！ - なじみがない…でも聞けば聞くほど楽しい！！みんなにも知ってほしい。これからも！！いろいろやりたい！ - 役所で戦略のこと聞いてもよく分からない！一からつくっているところみたい！カワセミなど、自分で何ができるか？？？ - 社内で生物多様性を広げたい！知っている人はどんだけいる？→これが生物多様性かも。始めから関わりたい！ 昔、里山に行ってた。村おこしを始めた！全国村おこし団体 - クライנגアルデンの考え方で！生き物みつけ！ - 地域をなんとかするには、時間がかかる！→祭りとか… - 生き物の調和＝生物多様性 - 色々やってたら、みんなついて来た！→これが実体 - 自然大好きクラブ、国立公園全国ライブカメラ - 家族、知り合いに話すこと！特に子ども。（色々な生き物がいるよ、海にいっぱい色々いるよ） - 身近に生物多様性を感じない！ヤマネコなら分かるけど…。港区では食べ物作ってないよネ… - 雑草とか園芸植物も含めてこれから生物多様性を感じる。でも外来種が多い。プラタナスグンバイがプラタナスを黄色くしてる。 - 庭ほしい！これがある所とない所で育つかどうかで、大人になって考え方がかわる。	- 自然観を考えること！！！！ - そもそも好き＝当たり前 - というよりも自然体、ゴーヤ・地産地消・旬のものがいい！ - 好き…だけど、暮らしの中ではすべて外から入ってきている。 - 鉢植えも自然…季節を感じる。 - 都会でちょっと何かやる→親よりも子どもがよく知ってる。体験。 - 野菜

■各グループで出た意見（原文のまま）

テーマ チーム	①第1部を聞いて、どんなことを感じ、考えましたか？	②港区の理想の未来をつくるため、どう関わっていきたいですか？
青チーム	- 中央区から来ました！聞いていると色々な生き物が。カワセミ、魚面白かった。 - 子どもの頃、港区に住んでました！経済と生物多様性は相反する…とは限らないのでは？（ex. シンガポール） - 私も中央区から。東京湾の魚に関心あり。都市の中で自然を実感できる機会が大切では。 - 小田原から来ました！港区の自然を知らなかったの、今後調べたい！ - WWF のオフィスは港区です！日比谷公園でセミの羽化を見ました。世界とのつながりという点で港区だけでは完結しない。（港区は世界に開かれたところ） - 江東区から来ました！カワセミの赤ちゃんの順番待ち面白い！新しいことを知ると次につながる。 - 親子で参加しました！7月から港区です。都会でありつつ公園も多い。住みやすいところ。高速道の近くは空気が悪く、BD も低いのかな？（カラスばかり…） - 生き物は全部好き！ - 目黒区と比べて、緑が多い！（NPO で調べた結果）	- 子どもの教育！子どもの頃から自然に親は機会を。田んぼ遊びとか。 - 大人が散歩する自然はあるが、子どもが自由に遊べる自然がない！ジャングル遊び、トム・ソーヤみたいに。木登りとか、ツリーハウスとか。 - あきる野市の森に行こうとしても定員で行けない。間口を広げよう。 - ゴミを減らす努力。「夜、眠らない街」を減らす。 - 港区と他の地域のつながり。外から遊びに来た人に、自然のある場所を見てもらう。 - 昼食後のゴミを捨てたり…そういう人がいる。生物とのつながりなどしっかり教えないと。想像力を持てるように！ - 公園もきれいに刈るだけでなく。 - 小学校は自然教育あるが、中→高となくなっていく。子どもだけでなく、大人がマインドを持たないと。そういう機会を設ける。（大人が自然に親しむ、学ぶ場をつくる） - 自然を増やすために、ゴミを減らす努力をする。六本木のような、眠らない街があると、動物が増えないので人々が協力してそれらを減らすようにする。電気・ガスを使わないようにする（昔は、それらがなくても上手に自分たちで協力して過ごしていたから）人間は、自然や動物の気持ちを分からないといけない！

■各グループで出た意見（原文のまま）

テーマ チーム	①第1部を聞いて、どんなことを感じ、考えましたか？	②港区の理想の未来をつくるため、どう関わっていきたいですか？
黄色チーム	・ ニュースを見ると里山がなくなる危機感がある。カワセミの話などが面白かった。 ・ カワセミの研究が進んでいるのが印象的。餌の食べ方や金魚の話、江戸前の話も。 ・ 広島からお台場に、自然や公園が多い印象。魚のことが気になる。海洋調査にも参加。 ・ 東京に予想以上に生き物がいるのが分かった。歴史の話も関心ある。 ・ 三田台公園でビオトープをやっている。カワセミの話が印象的。 ・ 自然園のことを初めて知った。働いている人には情報が少ないのでは。知らない自然のスポットをもっと知りたい。 ・ カワセミはどうなっていくのか（ヒナの行く先）が気になった。 ・ 情報が重要。 ・ DASH 海岸のような取り組みが面白いのでは。 ・ ウの問題もある。 ・ 港区の区報も企業に配布するのは。 ・ 自然の海ではないが、台場は生き物が多い。 ・ 生物多様性という言葉。	・ 昔のことが知りたい→世代間交流して対話を。 ・ 魚の種類を増やしたい→水をきれいにする活動を。 ・ 緑の活動員のような地道な活動を。 ・ 「港区生き物 2010」を小学生に配る。 ・ 在来種を導入→昔いた魚を戻す。100年前にはサワラがいた。

テーマ チーム	①第1部を聞いて、どんなことを感じ、考え ましたか？	②港区の理想の未来をつくるため、 どう 関わっていきたいですか？
緑チーム	・ カワセミ、魚、ヤギ、みつばち→東京湾のスターはアユ、スズキ。 ・ シンボルを一つずつアイキャッチャーにしたらいいと思った。 ・ 大都会と思っていたけど、生き物がたくさんいた。具体的に（ツルとかヤギ、カワセミ）多様性ごはん ・ カワセミが印象的。←啓蒙活動（上野動物園内）で人気がある。港区にもいるんだ。調査内容にも驚いた。 ・ 港区→多様な人種、遊びの場→自然教育園など調査研究も行われていてモデルになりえる。 ・ 様かわり、ここも小学校だった。芝離宮もある。金杉橋にも雑魚が来た。のりも作っていた。大きく変わった。こうなっちゃうと正反対のことをやっている印象。 ・ 戦略ってどのくらいのスケールで考えるのか？私たちの暮らしや生き方も含めて考えた方がいいのかなあ。 ・ 港区は大使館がある。関わるのか？関わらないのか？興味がある。 ・ 自然と触れ合う子ども→複雑だけど→自然と触れ合うことが大切だね。心を養う。 ・ 港区は90%事業者10%が住民というアンバランスさ。もっと事業者に関わってもらいたいと思った。 ・ カワセミみて負けた！みつばちはビロードみたい。ヤギはパフみたい。 ・ 港区にいて健康になりたい。おいしいものを食べたい。楽しく遊びたい。→共感する。 ・ 港区ブランドのアユもあり。 ・ 東京バナナはアイロニカル。 ・ 我々のライフスタイルは変えていかないと子ども達に幸せな生活を残せない。 ・ スケール感→ビジネスは勝負。生命は引き継ぐもの。 ・ 5年計画はあるが、市民レベルで10年～20年先を考えるべき。	■どんな港区をめざしたい？ ・ 経済もあるけど、多様性もある。→これを実現するために色々Activityが必要。 ・ 足もとの自然を感じられる港区→実感している人がふえてる。 ・ 若い人が住める港区→子育て世代 ・ 食が感じられる空間利用（田んぼ、畑etc.）がされている。 ・ ビルの中に自然を盛り込まれている状態。 ・ オフィス空間の中で、自然を感じられる、意識している（ソーラー自転車通勤、風、地中熱など）。 ■アイデア ・ 港区でとれたランチ会（学校、オフィス）→とれなかった→現状知る。 ・ 2F がチリ大使館→気軽に訪ねて、多様性について聞く。 ・ 足もとの自然を見る会を実施。→国際的な人にアピール。六本木ヒルズでも稲刈りやってる。 ・ 実施するためのネットワークを作る。→行政も協働。 ・ 東京タワー緑化計画（木造にかえる）

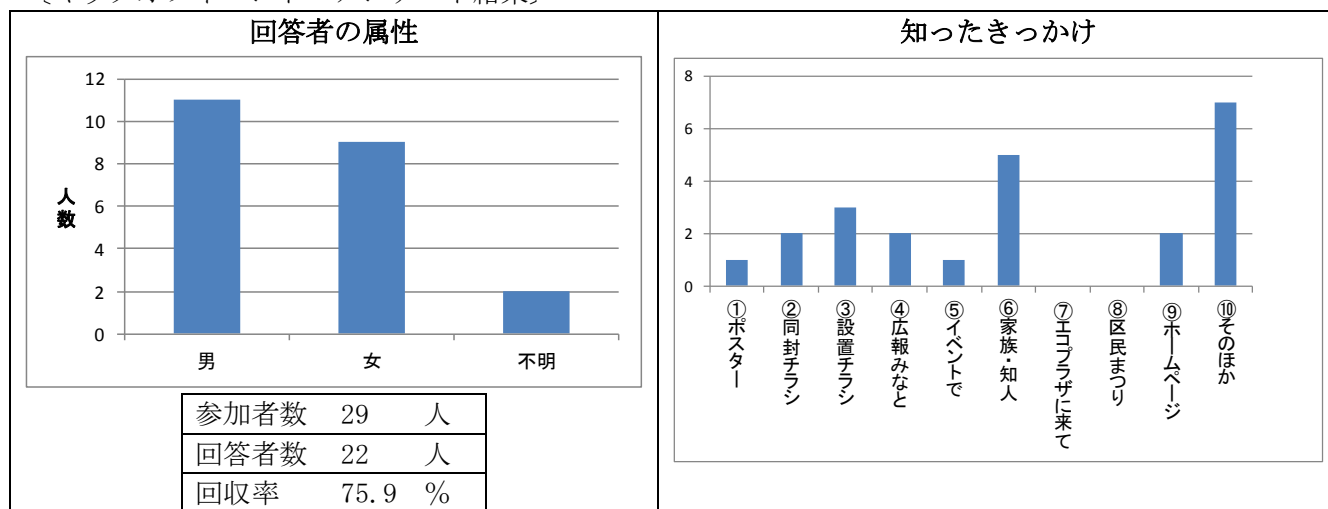
話し合いの最後に、各グループを代表して、専門家からグループで出た意見を発表していただきました。出た意見は様々で、チームそれぞれのカラーの出た、文字通り多様性に富んだ内容でした。なかでも小学4年生（最年少参加者）から出た意見が、生物多様性問題の根幹をつくもので、多くの参加者が感銘を受けた様子でした。

最後に、中村先生から全体を総括したコメントをいただき、今回出た様々な意見について共有しました。今回のイベントは、これから戦略を策定していくうえで、良いキックオフになったと考えられます。



中村先生による総括コメント

〔キックオフイベント アンケート結果〕



【感想・ご意見】（原文のまま）

- ・ 外来種とのかかわり
- ・ 「外来性」という言葉がわかりづらい。生活（便利さ）と自然が相はんするのをどのようにバランスをとって行くか。
- ・ 生きものの知識を得る事は、楽しいです。この様なイベントが、子供たちにも聞かせてあげたいと思いました。
- ・ わかりやすく、ユーモアのあるお話でした。楽しかったです。
- ・ この様なイベントに参加/活動する人が増えていくような地道なとりくみが必要。環境対経済でなく、それらが共存した戦略が港区に実現できれば、日本や世界に誇れるでしょう。
- ・ 広く公開されたイベントは非常に重要だと思います。
- ・ 単純に面白かったので、また参加したいです。
- ・ 大勢の方から身近なところから活発な意見が出ていて関心した。
- ・ 世界に誇れる戦略を期待しています。
- ・ 生物多様性に関するこのような普及・啓発イベントはとても意義があると感じた。講演の時間が短いと感じた（1名1名の方の）。
- ・ 今日は、楽しすぎる時間でした。1部は、聞く事ができませんでした。ごめんなさい。先生方今日はどうもThank you very much Teacher.
- ・ 本日は、途中からの参加となり、申しわけございませんでした。と共に先生方のお話を聞けずに非常に残念でございます。申しわけございません。次回は楽しみにしております。
- ・ こういうすばらしいイベントをやっていることをもっともっとPRして下さい。
- ・ みなさんのいろいろな考えを聞けて楽しかったです。区民の方の力を借りて良い戦略ができそうだなと感じました。
- ・ 生物多様性関連のイベントを増やして欲しい。

3. 「生物多様性勉強会」(12/7 開催)

〔日時〕 平成 24 年 12 月 7 日 (金) 18:30～20:30

〔場所〕 港区役所 (港区芝公園 1-5-25) 9 階 914・915 会議室

〔当日参加人数〕 一般参加者：16 名

〔ねらい〕

港区の生物多様性戦略をみんなで考え行動するため、生物多様性についての正しい知識を持ってもらい、参加者同士がつながり、活発な対話やネットワークが生まれること。

〔話題提供者〕

中村俊彦先生 (港区生物多様性推進委員会副委員長・千葉県立中央博物館)

〔ご参加いただいた推進委員〕

村上暁信先生 (筑波大学)、山田順之氏 (鹿島建設株式会社)

〔ご参加いただいた専門家〕

川廷昌弘氏 (株式会社博報堂)

〔スタッフ〕

港区：高橋係長、吉田主事

(株)環境指標生物：武田、中村、桑原、阿子島

(有)ビーネイチャー：鈴木

NPO 法人地域自然情報ネットワーク：梶並、井本

〔実施内容〕

実施 時間	内容	詳細
18:30	開会あいさつ、趣旨説明等	高橋係長
18:35	第一部 話題提供	「子どもの成長と自然欠損障害」について (中村俊彦先生)
19:25	質疑応答	
19:35	休憩・移動	
19:40	第二部 意見交換	2 グループに分かれ、以下のテーマで意見交換 (各グループ 10 人程度) 1: 話題提供についての感想と自己紹介 2: 港区の生物多様性戦略で取り上げるべきこと。 子どもの視点、自然体験などについて
20:10	発表・質疑応答	各グループでまとめた意見の発表、質疑応答 今後の活動についての意見交換
20:25	今後の予定・事務連絡	
20:30	閉会	

〔当日の様子〕

事前申込みのあった参加者は15名でした。これに、区役所職員や受託者スタッフ、港区生物多様性地域戦略推進委員会の委員などが加わり、28名程度が会場に集まりました。

参加者の内訳は表1のとおりです。このうち、キックオフイベント(11月10日)にも参加された方は3名でした。

第1部 話題提供

「子どもの成長と自然欠損障害」というテーマで、身近な自然との関わりが子どもの成長にとっていかに大切かを、科学的な根拠にもとづいてお話いただきました。

日本の自然と日本人の心が密接に関係していること、子どもの自然体験と健康が深く関わっていること、脳の機能と人のこころの問題がIT社会に関係しており、自然体験の有無にも関係していること、豊かなこころを育むには、豊かな感性が必要で、それは豊かな体験と体感を社会環境と自然環境で得ることが重要であるということを話されました。熱心にメモをとる参加者も多くみられました。

第2部 意見交換

後半は、スタッフも加わって2つのグループ(青チームと赤チーム)に分かれ、意見交換を行いました。テーマは、第1部の内容をうけて、その感想や自己紹介、港区の生物多様性地域戦略で取り上げるべきこと、子どもの視点、自然体験についてです。

自然体験と子どもの成長の関係性について肯定的な意見・感想が大半でした。

今の子ども達に自然を残しておくことができなかったのは、大人の責任であると感じている方も複数人おられました。なお、「障害」という表現は差別的な要素を含むので注意が必要だといった意見もありました。

現在の公園に対する問題提起も多く聞かれました。大人にとってよくても子どもにとってはよくない公園がありえるため、本当に良い公園を検討すべきといった意見や、子どもが自己責任で遊べる常設のプレイパーク等を求める声など、具体的な意見も出ていました。

また、今後の取り組みを考えるなかで必要なのは、自然体験に対する認識を変えてもらうということでした。大人の意識が変わることによって子どもが変わり、公園が変わるといった議論が交わされました。

さらに、港区の生物多様性地域戦略の策定については、「地域の評価を地図で見ることができるポテンシャルマップをつくり、様々な視点(生物・人材・歴史・地勢)を入れて考えていく」といった戦略作りの参考になる意見もありました。

意見交換は赤チーム、青チームで話題は多岐に渡りましたが、子どもが自然の中で遊べる環境を日常的に取り入れることが重要であるとの認識は共通した話題でした。



中村先生による話題提供

区分	人数
港区在住	3
港区在勤	4
区外	8
計	15



意見交換会の様子



まとめの様子

■各グループで出た意見（原文のまま）

テーマ	赤チーム
自己紹介と感想	・ 多面的な分野が横糸でつながっていく事が重要と感じた。 ・ 学校ビオトープに関わりたい ・ 脳と自然の複雑性が一緒であることが印象的だった ・ キレイすぎることは疑問だ ・ プレイパーク 土の感覚が嫌な子も→皮フ感覚がおかしくなってる？ →育つ環境が大事である ・ 子どもの遊び場 '95～、生物多チーム江東 で活動している ・ 二児の父 聞いてて「なるほどなー」（同感である） ・ 泥の子ども、木に登る＝僕も登りたい＝子どもだけでなく、大人にも言えるんじゃないか ・ タンポポ世代、ザリガニ世代等の3つは外来種→ずいぶん前から既に自然欠損障害なのでは？ ・ 樹林・土の調査 日常的に疑問だった事 ・ 江東区生まれだけれど、昔は自然があった。その中で育つのとそうじゃないのとでは違うんじゃない？ と思っていたが、なるほどという感じだった。 ・ 昔は毛虫 OK だったのに、大人になるにつれ、ある時期に、急に気持ち悪いものになった！ということ思い出した ・ 隅田川を散歩するといろいろ生きものを見つけます。 ・ 我々は幸せな世代だ！渋谷・目黒でも生きものとのつながりがあった。これを実感できた世代だから。 →今、少なくなったけれどまだ生物はいる →子どもは意外に関心を持たない!？＝教育から生物多様性を考え合う ・ 村おこし団体～ 子どもとの関わり＝「いきものみつけ」2～4月 ・ 教育園とか都会でもやってる→子供達は機会があれば自然遊びをやるよ！大人のリードはいらぬのでは？ ・ やはり、自然があったいい時代の世代かも ・ 別の世代で遊ぶのが大切！ ・ いい世代に育った大人が次世代に伝えられなかったかな＝責任 ・ 集団あそびや自然あそびの欠如を感じる ・ 横浜泉区 NPO 田んぼ稲刈り親子体験でスパイ ・ 子どもたちは自然を通して自発的な動きをする ・ 「障害」という言葉は差別的かも 注意が必要

港区で今後私たちはどういうことをしていけたらいいか	・ 港区は坂が多い！＝原地形が見えるような話が港区らしい戦略になるのでは ・ 学区内の自然度を高めることを大人がしなくては！園庭におちばダメとか…→大人が努力をしなくては。 ・ 子どものことをよく知らないとダメ ・ 子どもは遊び場を自分で見つけられる⇒子ども自身が遊び場を見つけられるマップづくりをしては？→大人が知るためにそれが必要だ ・ 幼稚園児を対象に種をテーマにした遊びを企画したところ、都会の公園は落ち葉や種なくて困った！ →シルバーさんが（公園の清掃で）キレイにしちゃう… ・ 良い緑がある→でも使い方を間違えると、大人にとってよくても子どもにはどうかなと思うことがある。事故があるという心配とかがあって、結局面白くない公園になったり。本当に良い公園は？ ・ みかんがあるとハチが来るので危ないと言われる オオスズメバチの好きな木とか排除する視点が強まっている →それでは自然は壊してしまう 大人による寄生 ・ 1・0で残す・壊すという議論ではなくちゃんと考えよう →普通の自然がほしい→どんな？＝草ぼうぼう・教育園のような粗放的な管理のところ →こうした場所はクレームも ・ 誰の認識が変わればいいの？ →お母さんが変わる！ーお母さん公園とか？ ・ イベントでないほうがいいけれど、イベントが手っ取り早い ・ 大人が子どもと一緒に汚れてみる体験から 楽なところから ex.)芝生からスタート 30cmとか ・ 関心の低い、体験のしていないお母さん→子どもに伝わってしまう ＝どう伝えるか？ ・ イベントを実施しても、だんだん決まった顔ぶれに… →自然体験が主な目的ではダメ ex.)バーベキュー+1/4で自然とか！ ・ 子どもたち原っぱを作るなどの成功体験とか ・ 大人が変わる →子どもが変わる ・ 公園が変わる ・ 昔はよかったという声が多かった。ならば、昔を振り返るのではなく、未来に活かそう、教育の場に伝えよう
----------------------------------	--

■各グループで出た意見（一部整理済み）

テーマ	青チーム
本日印象的だったこと	・ 「自然欠損障害」という表現は、言い過ぎでは？ ・ 科学的な根拠はわかりやすい ・ 子どもの情操教育や習い事を語るうえで「脳」というキーワードが使われすぎでは？ 研修所脇の保育園 →自然体験できる場所が多かった（守ろうという戦略） →開発されそう ・ 企業にとっての生物多様性とは？ →土地があっても入れない ・ 「青年と山」での体験。アスペルガーやADHD のなどの方たち体験を通して変わったという話がある。港区でも体験できる場所を
港区の自然や自然体験について	・ 地方出身なので（港区に自然は）少ないと感じる ・ 子どもが自然の中での遊び方を知らない ・ 自然にあるものを使って→五感を使って ・ 土が汚いという認識は悲しい ・ 東京は自然じゃない？自然の一部であるという認識に立って、港区でできることを追求したらどうか ・ 港区の特性の中で自然を楽しむ ・ 都市型の自然 ex.)シートを敷いておにぎりを食べる…場がない ・ 待機児童が多い→外で遊ぶ機会が少ない 落ち葉はゴミ ・ 脳の機能が自然体験と関わり有るということと、生物多様性とをつなげるのは無理があるのでは。 ・ 自然に境界線はない。水ひとつとっても流域という視点が必要。 ・ ポテンシャルマップ→指標種（イトトンボとか）→地域を評価 ・ 自然・生物多様性 自然の少ない港区といまいち合致しない。 ・ 観察会のような気軽な自然との触れ合いを選択できるような状況がいい。 ・ 2才児の父として、子どもは場があれば勝手に遊ぶ←こんな場が大事なのでは ・ ・自然体験はおまけでない。教育に取り入れる必要があるのでは
港区で今後私たちがしたいこと	・ 常設のプレイパーク ・ 自己責任で遊べる場所 ・ 場所を繋ぐ ・ 地域を地図で見る →どういう地域なのか、という評価 ・ ポテンシャルマップ →様々な視点が入ってくる・・・生物・人材・歴史・地勢 ・ 自由に遊べる場所は必要。 ・ ただし、生物の保全にとっては規制が必要な場所も考えられる。 ・ いろんな視点が入った地域戦略を作りたい

4. これまでの意見交換会における区民意見のまとめ

これまでの意見交換会の結果を受けて、多くみられた意見や特徴的な意見をまとめました。

○「生物多様性」という言葉への抵抗感

「生物多様性」という言葉の意味がわかりにくい、複雑さを感じるといった声が多く聞かれました。

○港区の生物多様性を考えるうえで気になること

1) 身近な自然との触れ合いの機会の減少に対する懸念

身近な自然との触れ合いの機会が少ないことが、子どもの成長や大人にとっても自然のめぐみや自然とのつながりを感じることに妨げとなっているとの声が多く聞かれました。

これは、物理的に自然が少ないことへの危機感とともに、自然の恵みを感じたり大切にすることの価値観が弱くなっていることへの危機感の2点が挙げられます。

2) 運河をきれいに

港区の特徴として、運河や海浜といった海辺があることが挙げられます。とくに、運河を泳げるくらいきれいにしたいといった意見がありました。

3) エネルギーやゴミに対する懸念

六本木のような眠らない街があることで、電気やガスなどのエネルギーを使いすぎること、ごみの排出を減らすことが重要との声がありました。

○生物多様性と暮らし・経済のあり方

生物多様性の保全・再生や、持続可能な利用を重視しつつも、快適な暮らしや経済活動との両立を図ることを望む声が聞かれました。このことにおいては、多様な価値観が存在するなかで、生物多様性の保全と暮らしや経済活動とのバランスをとることになるとの声がありました。

○生物多様性という概念を広めるためには

意見交換会の参加者においては、その概念の重要性が認識されていました。生物多様性という概念を普及するための意見が広くみられました。いずれの意見交換会でも、「自然とのつながりを感じることができるかどうか」が、生物多様性の理解を広めることにつながるという認識がありました。

とくに多かった意見としては、「足元から生物多様性を感じられるようにする」、「身近な場所で自然と触れ合えるようにする」といったことでした。

このために必要な行動として、次のような意見がありました。

1) 身近な自然に気がつくための視点や情報提供を

港区は自然が少ないと感じる方が多い一方で、都会としては公園などとして自然が多く存在するといった声もあります。運河や公園で、身近に生きものを観察できたり、庭や鉢植えでも自然を感じられるといった声も聞かれ、そうした身近な自然に気がつく視点を広めることが、足元で生物多様性を感じられることにつながるという声が聞かれました。

また、在勤者をはじめ、区内にある豊かな自然環境に関して十分に周知されていないとの認識から、そうした場所の情報提供が重要であるといった声も聞かれました。

2) 自然体験の機会と場所の確保を

子どもが自然体験をするためには、自由に自然の中で遊べる場所が必要であることと同時に、自然体験イベント等の気軽に参加できる場の設定も必要であるとの声が多く聞かれました。

手法としては、観察会の実施、常設のプレイパークの設置のほか、より広い層に体験の機会を提供するためには、バーベキューなどの自然体験以外のイベントに、自然体験の時間を少し組み込むなどが有効との意見がありました。

3) 食や農業の視点が理解しやすい

食や農業といった観点は、生物多様性とのつながりを直接的に感じやすく、人々にも理解されやすいとの認識が多くあり、野菜栽培をする、港区での地産地消をする等の意見がありました。

4) 自然との触れ合いができる公園管理を

とくに目立った意見としては、公園管理のあり方の見直しについてです。

港区では、身近な自然の多くは、公園にあります。しかし、公園では、自然体験に使う種や落ち葉が得られないといった話題が出るほど、過度な植生管理による自然体験の機会が失われています。草が生い茂る粗放的な管理の公園が、とくに子どもの自然体験の場として重要であることを指摘した声が多く聞かれました。

一方で、事故の危険が伴うことや、害虫被害などとの折り合いをつけることの必要性も挙げられ、細やかな議論や調整が必要であるとの意見もありました。

5) 環境教育の充実を

子どもに対する環境教育が重要であるとの声が多くありました。一方で、中学校以上から大人になると、自然教育の機会が減少するため、大人に対しても重要であるとの声がありました。

以上